

新春法話 『今日が良き日になることを祈る』

明けましておめでとうございます。

本年もようこそお地蔵さんのお寺正光寺の初詣にお参りいただきありがとうございます。

コロナ禍となって三年目のお正月を迎えました。昨年来ウイズコロナのもと、私たちの日常生活は、感染防止をしつつ平常を取り戻そうとしております。しかし感染者数の数を見ては一喜一憂し不安をなかなかぬぐえない現実には迷っている所もあります。一日でも早くコロナ禍が終息しマスク無き生活が当たり前になることを切に願うものであります。

さて、令和五年は真言宗の開祖 お大師様こと弘法大師空海の御生誕千二百五十年の記念年となります。空海は宝龜五年（七七四年）、讃岐の国現在の香川県善通寺市にお生まれになりました。中国の当時は唐の国へ新たな仏教「密教」を求めて留学し、唐の都長安の青龍寺（しょうりゅうじ）の恵果阿闍梨（けいかあじやり）に師事して真言密教を学び修めました。帰国の際、恵果阿闍梨から「この真言の教えを天下に広め、この世に生きる者の幸福を増しなさい。」と励ましの言葉を授かりました。

帰国後空海は、朝廷の庇護のもと真言宗を開宗し、高野山、東寺を拠点に布教活動に邁進しました。空海の真言宗の教えでもって、生きる者の幸福を増すことを祈ることは、現在まで絶え間なく受け継がれてきました。ここ正光寺も、初詣の護摩祈願や七五三健やか祈願を通じて、地域の方々に安心を与え、各々の願いが成就することを祈り、幸福が増すことを願っています。

ところで、私たちは今、人生百年時代 誰もが長生きできる社会を迎えようとしています。その反面、長生きすればするほど、老化や病気による身体の不自由を余儀なくされ介護の必要性が増すことや、家族の縁の薄さから孤独に陥る人も増えていくことも危惧されています。そこで、ただ長生きすることではなく、健康に多くの人々と関わり合いながら長寿の道を歩むことが如何に大切であるかをどの年代にかかわらず学ばなくてはなりません。長寿の道もまさしく「千里の道も一歩から」です。一日一日を大切にして、積み重ねていきましょう。そこで『今日が良き日になることを祈る』です。

お釈迦様は、この世を「苦海（くかい）」と観じました。四苦八苦（しくはっく）といつて

生苦（しょうく 生きることの苦しみ）

老苦（ろうく 老いる苦しみ）

病苦（びょうく 病にかかる苦しみ）

死苦（しく 死の不安による苦しみ）

怨憎会苦（おんぞうえく 嫌なものに出会う苦しみ）

愛別離苦（あいべつりく 愛するものと別れる苦しみ）

求不得苦（ぶふとつく 求めても得ることのできない苦しみ）

五蘊盛苦（ごうんじょうく 身体を調整できない苦しみ）

と避けることのできない苦しみの中で私たちは人生を送ります。ですから古来より少しでも苦しみを和らげる安心を得るために私たちは神仏に祈り続けてきた信仰の歴史があります。

「良き日になること」それは苦しみを感ずることなく平穏無事に一日を過ごせることかもしれません。祈ることとは、詰まるところ安心を求めることに違いありません。自分の、家族の、仲間の、生きとし生ける者の今日が良き日になることを日々祈りましょう。

初詣ご参拝の皆様が、「幸福を増す」ことを実践する真言宗の教えと、正光寺のご本尊地蔵菩薩のご利益の一つ「代わりに苦しみを受けて、福を授ける」に信心を深められ、安心を得られて今年が良き日々で過ごせますことをお祈り申し上げ新春法話とさせていただきます。

令和五年 癸卯 元旦

延命山正光寺

住職 高野隆晃